

## 連用制 ベターな制度



政治の漂流、国民と政治の乖離が深刻になっていきます。政党やリーダーの資質や能力の問題など理由はさまざまありますが、今の選挙制度が大きな要因であることは間違いありません。一気に選挙制度の抜本改革

を行うときが来ています。

公明党は「小選挙区比例代表連用制」「併用制」「新しい中選挙区制」の3案を議論の対象としています。目指すべきベストな案は完全な「比例代表制」ですが、17年前の選挙制度改革のような大転換をするには時間が少なく、今の待ったなしの状況には応えられない。そこで現行制度よりも民意の反映幅を広げられ、かつ次の選挙から直ちに施行できるベターな制度として「連用制」の採用を提唱して

います。

連用制は二大政党に人為的に振り分けられ突出していた議席の山を低くして、第3党以下に振り分ける制度です。選挙のたびにたった一つの争点をめぐり、二大政党間で議席が大きく揺り動くようなことは起きません。落ち着いた政治が定着するでしょう。

連用制で最も得をするのは公明党だといわれますが、そんな単純な話ではありません。メディアのシミュレーションでは倍増するという小政党もあります。

連用制の下では連立政権が常

態化するとの指摘もあります。

それは二大政党のどちらも、連立の組み方次第で政権を担う可能性があることを意味します。政権交代可能な二大政党制という良さは残るのです。

現行制度の持つ光と影の影をいかに薄くし、強烈すぎる光をどれだけ和らげるか。われわれの提唱する案の焦点はここにあります。

各党が年内にも大筋でこの制度でいこうと合意し、細かな制度論は来年の通常国会でまとめいくスケジュール感、スピード感で臨むべきだと考えています。